

作二人糞百卅二擔、運動廿二人下子半人、三月、八月、

〔農業全書四〕胡葵

南蠻の語に、こゑんとろと云、食物等の悪臭をよく去ものなり、猪肉鶏肉などの料理に加ゆれば、あしきかを消し甚宜し、其子は痘疹の出かぬるをよく發す、さまざま其用ゆる法あり、痘疹の時けがれにふれてわづらふに、此實を酒に煎じ、病人の邊りのかべ帳などに吹かくれば、能穢を去、又魚肉などの悪氣を殺す、不時に用ある物なり、必少作るべし、

〔延喜式三十二〕園韓神祭雜給料春冬並同

胡葵五升

〔延喜式三十九〕供奉雜菜

日別一斗、○中 胡葵二合、正二十九、十一月、

〔本草和名九〕穢香子、一名時羅出雀、一名懷芸、一名香芸、已上出、和名久禮、乃於毛、

〔倭名類聚抄二十〕穢香、兼名苑云、懷香一名懷芸、和名久禮、乃於毛、

〔箋注倭名類聚抄十〕按千金翼方證類本草並作懷香子、蓋本草作穢香子、兼名苑作懷香、二書不同也、下總本懷香作穢香、恐係據本草校改、非是、又按穢字、說文玉篇廣韻並無、唯集韻有之、蓋俗字也、

○中 蘇敬云、葉似老胡葵、極細、莖高五六尺、叢生、今注、一名茴香子、圖經云、三月生、五月高三四尺、

七月生、花頭如傘、蓋黃色、結實如麥而小、青色、

〔下學集下〕茴香

〔宜禁本草乾〕藥中草、茴香、辛平、主膀胱腎間冷氣、調中止痛、治癩疝陰疹、入藥炒、調脾胃、進食、生莖葉、汁和酒服、治

腎氣衝、脇刺痛、

〔重修本草綱目啓蒙十八〕穢香、クレノヲモ和名、ウイキヤウ、一名草穢香、本經逢原、時樂南寧

懷香